



ふるさと納税イベントで余市の魅力をPR！

(地域おこし協力隊 秋保隊員リポート)

11月1日(土)、2日(日)の2日間、余市町へふるさと納税の寄附を行い、ウイスキーオーナーとなった方を対象としたイベントが開催されました。

法人で地域おこし協力隊となっている株式会社あるやうむの取り組みで、イベントに参加したのは、関東圏や札幌などから20代から60代の計7人。余市町に90年ぶりに誕生した『サワマチ蒸留所』で生産されたウイスキーの所有権が含まれるNFT(デジタル上の所有権を証明する技術)を受け取った皆さんで、樽の開封時期を決める投票への参加権やオンラインコミュニティへの招待などの特別な特典もあります。

イベントは両日ともに、『サワマチ蒸留所』の見学からスタート。代表の菅原さんによるウイスキーの製造方法の説明の後、貯蔵樽の見学や試飲が行われました。参加者からは「ウイスキーを何年熟成させるかを投票で決めるのが楽しみ」などの感想が出ていました。

蒸留所見学の後は、希望者向けに法人地域おこし協力隊(株式会社あるやうむ)のhiro隊員が登町のヴィンヤードの風景やニッカウヰスキー余市蒸溜所などを案内するショートトリップを実施。参加した皆さんに余市の魅力をたっぷりと紹介しました。

hiro隊員は「イベント全体を通して、地域外の方々にも余市の魅力を感じていただけたことがとても嬉しかったです。余市町の豊かな自然環境がおいしいウイスキーを育てていることを、ウイスキーオーナーの皆さんと一緒に体感できるひとときでした」と語っていました。



▲ 貯蔵樽見学

問合せ 政策推進課 政策調整係 ☎21-2117



高校生が地域に貢献！犯罪・薬物防止ポスターを制作

余市警察署からの依頼を受け、余市紅志高校のマンガ・イラスト同好会の生徒たちが、「闇バイト」などの犯罪加担防止や、大麻をはじめとする薬物乱用防止を呼びかける広報啓発用ポスターを制作しました。

ポスターのデザインを担当したのは、3年生の中川夏々さんと片石碧さん。スマートフォンのアプリを使いながら、デジタル制作に不慣れな中でも工夫を重ねて作品を完成させました。

中川さんの作品では「やってはいけないことをやってしまう」心理が印象的に描かれており、片石さんの作品では、薬物による幻覚の恐ろしさが表現されています。

この取り組みに対し、10月20日(月)には余市警察署にて、榎原均署長から両名に感謝状が贈られました。

完成したポスターはB2サイズで各200枚ずつ印刷され、余市警察署管内の小・中学校やイオン余市店などに配布され、地域の啓発活動に活用されています。



▲ 中川さん(写真左)と片石さん(写真右)

問合せ 政策推進課 広報統計係 ☎21-2117



地域とつながる「ハロウィン音楽会」開催！

10月18日(土)、中央公民館にて「ハロウィン音楽会♪地域交流会～かがやく笑顔でつながろう～」が開催されました。

今年で2回目となるこのイベントは、障がいのある方やそのご家族、福祉関係者に加え、高齢者や子育て世代など、幅広い世代が交流することを目的として開催され、当日は約100名が参加しました。

音楽会では、ピアノ・サクソ・ドラムによる演奏が披露されたほか、子どもたちによるダンスもあり、会場は大いに盛り上がりました。また、かぼちゃの馬車やお城など、ハロウィンをテーマにしたイラスト展示も行われ、来場者の目を楽しませました。



▲ 笑顔あふれる地域交流会

問合せ 政策推進課 広報統計係 ☎21-2117